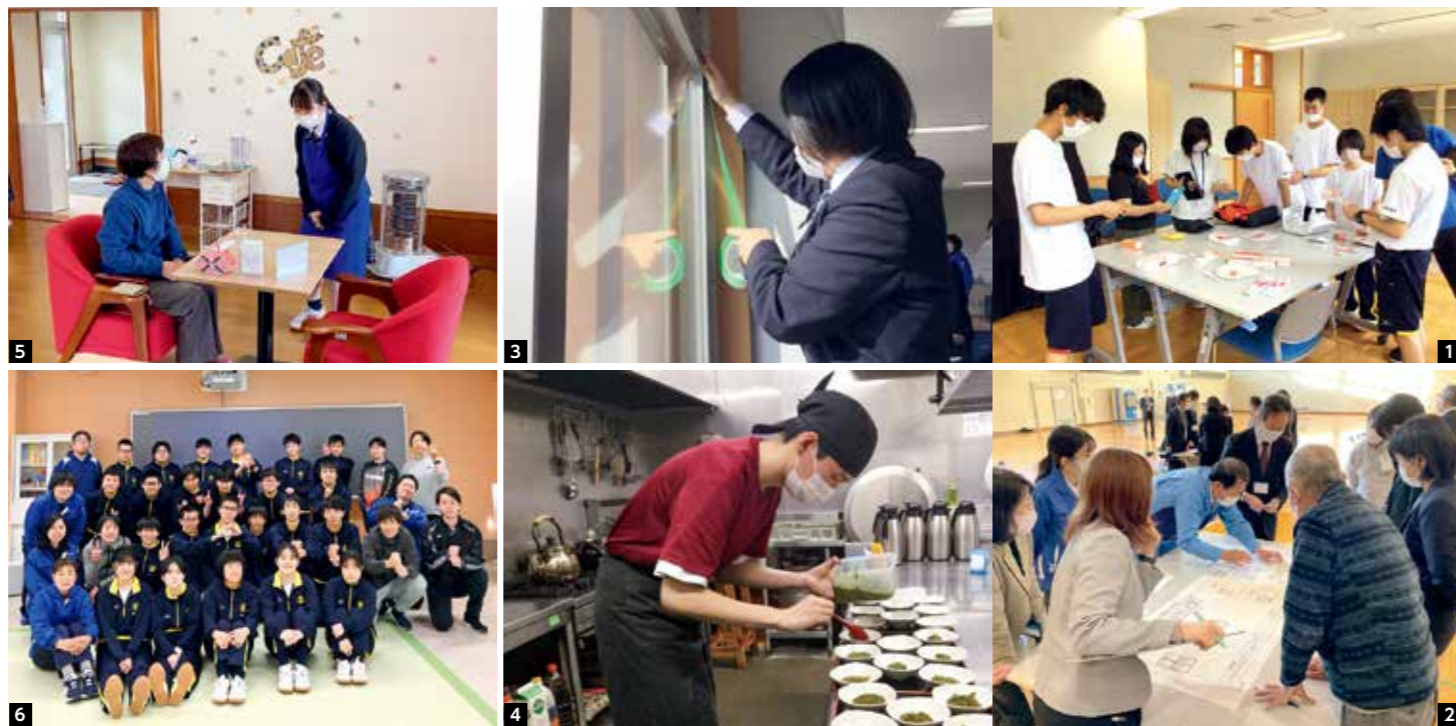


みやぎ“交”循環予算

いよいよ新年度がスタートいたしました。毎年、新年度予算を記者の皆さんに説明する際にネーミングを披露することになっています。一年間の大枠を決める予算ですので、その年の県政の方向性が分かるネーミングに毎年かなり注目が集まります。私は今年度の予算を「みやぎ“交”循環予算」と命名しました。通常は「好循環」と書きますので、おやっ?と感じた方もおられたかもしれません。決して文字を間違えたわけではなく意図的に「交わる」という文字を使いました。その心は、今年こそ多くの人や組織、情報が交わる年にしたいと願ったからです。この3年間コロナで外出や会食がままならず、交流がオンラインに限定されるなど非常に息苦しい日々が続きました。間もなく感染症法上の位置づけが2類相当から5類になり、ポストコロナはマスクをせずに堂々と外出できるようになるでしょう。貴重な予算を多くの人や組織が交わるチャンスの創出に活用したいと思えます。また、同時にDX（デジタル・トランスフォーメーション）の基盤を作る年にしたいとの思いも込めました。DXの「X」は交わる、掛け合わせという意味です。デジタル技術を掛け合わせ、県民の皆さん一人一人に必要な情報を必要なタイミングでお届けできる県政を目指して、今年度から具体的に動き出します。ポストコロナをチャンスと捉えて行動します。ご期待ください！

宮城県知事 村井 嘉浩



【写真の説明】

1 総合防災訓練で防災グッズを確認する生徒たち 2 防災研修会でのHUGの様子 3 目張り作業に取り組む生徒 4 飲食店で現場実習を行う生徒 5 カフェ営業の様子。夏は多くの人が集まり、憩いの場になるのだとか 6 新3年生と職員の皆さん。思い思いのポーズでパシャリ

方が見守る中、窓などの目張り作業を行いました。根気のいる活動ですが、生徒たちは最後まで一生懸命取り組んでいました。

地域の支え

生徒たちが町内のお店や会社などで働くことを学習する現場実習や、自治活動における取材への協力、校内で営むカフェへの来店、食品製造の際のアドバイスなど、さまざまな活動において、日々地域の皆さんに支えられているなど感じています。こうした地域との交流や体験を通して、生徒たちは刺激を受け、それが自信となって成長していきます。

— 今後の展望は？ —

学校のこと、生徒のことを知ってもらうためには地域の方々と一緒に活動する、見てもらう必要があります。学校と地域、双方の理解が深まることで生徒たちの成長にもつながります。

そのため、今年度は、コロナ禍前に行って



宮城県立支援学校 女川高等学園
教頭(取材時)/大越 真人さん(右)
学校運営協議会
会長/門脇 恵さん(中央)
副会長/齋藤 康隆さん(左)

いたボランティア活動などを活発化させ、コミュニティスクールとしてさらに発展させていきます。

地域の一員として活躍し、地域から愛される生徒を育て、支えてくれている町の皆さんに還元できる学校、そして地域から応援される学校を目指していきます。

本シリーズでは、県政運営の基本方針「新宮城の将来ビジョン」において重要な視点として位置付けている「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、各分野で魅力ある活動に取り組む県内の企業・団体などを紹介していきます。

第11回

地域とともに歩む 学校づくり

宮城県立支援学校女川高等学園(女川町)

県内の特別支援学校で初めてコミュニティスクールを導入した宮城県立支援学校女川高等学園の大越教頭(取材時)と学校運営協議会会長の門脇さん、副会長の齋藤さんにお話を伺いました。

— 学校について —

本校は、平成28年に女川の地に開校しました。県内唯一の3年間全寮制の支援学校で、生徒60人(令和5年度)が寄宿舎生活を送っています。食品製造・福祉・サービスの3コースがあり、障害者雇用枠での一般就労を目指して個々に合わせた指導を行っています。

寄宿舎生活では、地域の自治会をイメージした縦割りの班で自治活動を行っています。「自主防災組織」も兼ねていて、毎年9月の総合防災訓練では、各班がプログラムを企画し、地域全体を守るための訓練を行っています。縦割り活動により、先輩から後輩へ受け

継がれ、途切れなく活動を進化させることができている。

— 特に力を入れていることは？ —

コミュニティスクールの導入

令和4年度から、コミュニティスクール事業が始まり、学校運営協議会が新たに発足しました。コミュニティスクールとは、職員だけでなく、地域の方々も一緒に学校運営に関わる取り組みです。協議会では、民生委員や商工会、職業安定所などの方々がメンバーとなり、より良い学校づくりに向けて、会議や行事の視察などを行っています。

昨年10月には防災研修会を開催し、本校職員と町の皆さんとでHUG(避難所運営ゲーム)や校内見学を行いました。初めて学校に来られた方も多く、学校を知ってもらいきっかけにもなりました。また、今年2月の原

ページ

- 新・宮城の将来ビジョンシリーズ
- 2 PROGRESS ~ともに創ろう、躍進する宮城の未来~
宮城県立支援学校女川高等学園(女川町)
- 特集1
- 4 令和5年度当初予算の概要
ポスト・コロナを見据えたみやぎ“交”循環予算
- 特集2
- 8 DXで「みやぎ」が変わる!
- 特集3
- 10 みやぎ環境税
みやぎの豊かな環境を守り、次の世代へ引き継いでいこう
- 県政ニュース
- 12 「どこにいても誰かとつながっている」
学校に登校していない子どもを支援します
- 県政ニュース
- 13 ご存じですか?民生委員・児童委員
毎年5月12日は「民生委員・児童委員の日」です
- 県政ニュース
- 14 必ず受けて!特定健康診査・特定保健指導
- 15 おいしいものがたくさん!
まんぷくみやぎ
- 16 7つの地域から虹メール
- 18 お出かけガイド
- 20 みやぎのふるさと通信(仙台市・色麻町)
- 21 県立施設インフォメーション
- 22 県からのお知らせ

みやぎの人口(令和5年2月末現在)

住民基本台帳人口/2,253,411人(前年同月比-11,547人)

男/1,098,974人 女/1,154,437人

世帯数/1,035,343世帯(前年同月比+11,741世帯)

今号の表紙

みやぎハッカソン2023最優秀賞受賞!

3月に開催した「みやぎハッカソン2023」で、見事最優秀賞に輝いたチーム「笹かまぼこ」の皆さんです。このイベントでは、熱意あふれる学生たちが柔軟な発想で、アプリ開発などを行いました。若きエンジニアたちの力が明日の宮城を切り開いていくことを期待します。